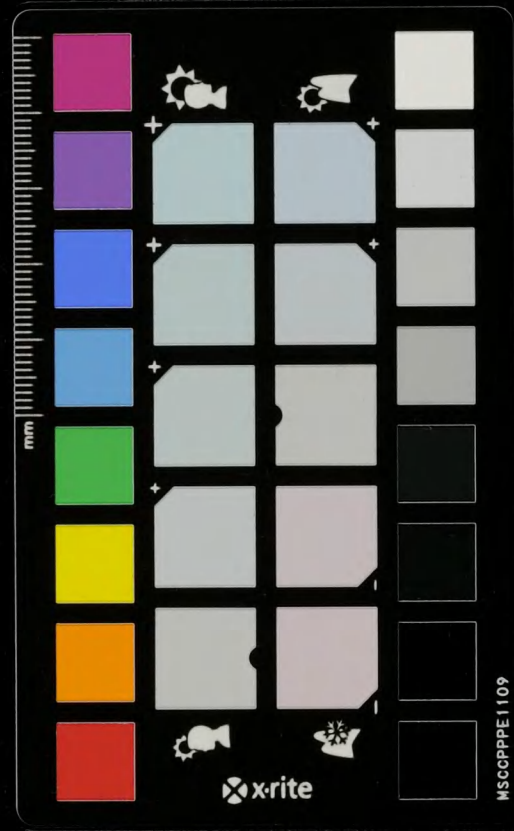


北蝦夷圖説

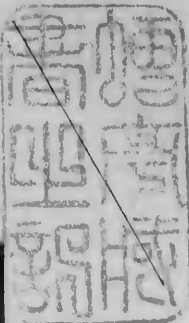
スメリシクル夷部
附録

四尾

特
132



明治七



北蝦夷圖說卷之四



常陸 間宮倫宗口述
備中 秦 貞廉 編

スメレンクル夷の部上

一 シラヌシト云々西海岸凡百五六拾里なる所ヲキトウシと称
と云々地あり此所ト云々て奥地ヲ滿州附屬の夷スメレンク
ルヤ称し其俗の者住居し其人物ハ理髮耳飾とも不ヲ口
ツコ夷小異と云々なりと云々魚と云々容貌何と云々少云々上品
なり其言語ハ悉く異なりて辨知難きもの多し其衣服ハ
又ヲ口ツコの服と云々處小異と云々なりと云々滿州小至

132

特

北蝦夷圖說 卷之四



スレンクル夷圖 其一

橋本玉蘭畫

其二



哺乳圖



て交易はる事屢なるは木綿衣の類満州製の物を用ふる
と多し

一 女夷も亦ヲロワコ夷亦少異あるありとちりともども其容貌
 艶たる者多し浴湯成粧の事見聞はるともろなりともども
 嗽口拭面はる事やは日毎小是とちせば顔色いつも満漑と
 して醜穢の色なり且其情報夷島女夷と大ふ異なりて相識
 なくける人なりとも能馴て昵し言語通せざれば其言とち
 る瞭然とるべしともども時氣寒暖の應接などおしてつ
 小も婉情妖態多く男子と接するの様親意殊に深しと云
 一 女夷裁縫の事小疎きものなり其顔色美艶なりともども衆夷

是と賤いじく行嫁いけむら遠とほく故ゆゑ女夷裁縫ざいほうの事と練熟れんじゆくひるあり殊ことごとく精せい懃しんなり

一 此夷種こゝろより山且やまコルナツケ其他韃地たつちの諸夷女夷しよゐはいつるる過失あやまちありといふも教しよひことなき法はふといふ其女むすめと貴たかぶの情なさけをこゝろこ

一 女夷梳頭くみかみの状かたち圖ずれがくく口くち水みづを舍居すゐかて去いげ柿かきと濕ぬく是と梳かみひ男夷おとこ大抵たいてい自らみづからるるものなく女夷むすめとさう是と理ことせしめ又相互あひあひする者ものといふと云

一 女夷子むすめと産うむるの事見聞みきこらるる事なり只其子こと育やしなはるるにこゝろこ至いたりて固かたれおとくたる械くわ縛ばく屋やより彫木てうぼくと垂たり

是と掛かく嬰兒あひこより四五歳しよ小ちむる皆みなかくのぶぶ其下木器したきぐと置おて遺尿おしやうやうくる物ものとい

一 手てハ束縛そくばくせられて動うるうたつては屈伸くつしんするといふども自由じゆうなるものなり然しかれども其飄ひらたるもの快たきや又地習ちじゆのちつちむるもや嬰兒あひこハ論ろんなく三四歳しよの児こといふも涕泣てきするといふと云

一 含乳がんにゅうせむる時ときハ束縛そくばくのちち是と抱かかりて含くむ飲終のんしゆるときを又掛かるとき本の如ごとくは出いること含乳固初がんにゅうこ

一 飲食おんじも南方初島なんぽうしよ小異ちよなるものなりといふも満州まんしゆより粟豆ももぢ麥蕎麥むぎせうの粉こなと交易かうぎし來きて是と食たはること異ちよなり然しかれども其

易るところ無^{ちま}数なるは常食とちひよるは時々稀に嘗
食ひ

一日中の食度本より定りたるはやくちく其飢渴は従ひ食ひる
おとかりと云ふも大抵兩三度と限りたるは下男夷
を朝起のより其所業よりかると漸小飢を催ひ頃及で
四時家小する其内女夷の家はあつて朝餉の設けを調へ夫
の帰るを待て膳とらむ其勸食の状大小 本邦と異なり
て飯菜を食ひるをなく假令家内二人たり先釜中の魚
を三よ分ていふも多少なり様は三盃小盛是と勸め其食
終るを待て又草根の煮物小魚鮎の油と云ふも茂たると三椀

小齋いひく盛て是と云ふは是は食し終て後他の粟麥粥と
とらむ如斯くあるは更にも同物と二盃と食ひる大
となり大抵何物を食ひるも饗應の席はあつたれを習
味弄食いひち多食ひるはよく悉く儉ありて其節をせし
是るの食物悉海山と云ふく人造のものにあつたれば多く
得べき物にあつたれば飢渴の事あつたれを怨む心なる
といふべしと云

一 饗應の事南方と異なりて其席貴賤の次序とるはちや殊小
嚴なり家中の正面は坐ひる者を上客となり其左右順を以て
列座し

- 一 酒ハ地製のものナリ 悉ク滿州より交易し來るところ此のもの
 ありて其名アルカト稱シ 本邦の焼酎カウホーと稱シ
 る錫壺いんのつがに盛テ湯中ニ入シ又ハ熱灰中ニ埋テ温酒となり是
 と云々 酒杯も陶器やきしろありて滿州より交易し來るものちウ宴中
 一杯と巡環しゆんかんして是を飲み他器を出ハあふ有ハ其時より
 了割烹種々の差ありと云々も此下西三種と出テ其概と
 つらぬ 滿州より交易し來る酒瓶錫壺杯其他夷の杯盤と
 ちハ本邦の漆器固悉器械部の未ニ写し出ル
- 一 乾鱒 乾キヒル 夷稱ハケ
 右ニ味各細きざ判はじ 僅小鹽味と加 蕃椒粉とうかうしのこと合テ一種と云
 一 生魚鱒鮭の類と水煮たテ一器小盛テ置別小シヤント稱スる海

- 草似昆布者 キトヒル 或ハ葱ねぎの類と合判一是と水み放つ時と其
 水みはぐつて少く鹽氣と存ハ是と以テ水煮の魚肉と食フ
- 一 大豆 キトヒル 眉兎豆まゝ其他草根草實と合テ能く水煮
 一 魚油と云々みで和物と云々
- 一 蕎麥の粉と以テ餅と製一魚油と注テ一種と云
- 一 粟と粥とナリ一者より滿州より遠來のゆれなれ珍味
 云々ハ其大概如斯類ありて此他獸肉の類ハ有ハ但ヤテ割烹はに
 一 凡諸有あふより一種毎ひと一益ひと盛たるありたり 壁か有あ五種
 ある時五益と出ハ平生の食事と異小テ客毎ひと益ひとと設け
 以其次序と追テ一益通食一其態主人強勸かむハ客固辭か以

るなどの事いあつて蝦夷島宴飲の類小あつた

一此夷域小玉うけは酒も殊小少く貧賤夷のあつても其味と
知ざる者少くべ然る小林蔵持ゆく所は砂糖と出しく是
を嘗てひる小唯美ちると称するもて更餘と食
ふ者なく酒烟草と出しく少く是を嘗てひるハ忽其味と
悦び餘と乞ふと殊小切あつて甚た見者小玉うけハ顔色
相貌平生小異なるも此あつ北夷の嗜好是を外あつて
他物有とたれたるを知るべし

一此夷種も其地の寒暖よめて穴居するものなりとせざ
る者あつ其穴居せざる者の居家ハ大抵五六間四面乃至七

八間四面許或は縦長く横短き者あり小方木と以て製一家の四方戸口

あつて明とよみ又出入ゆる屋を木皮と以て是とわらひ其
上小わらひ小雑草と以て風の吹去るひとを思ひて縦横
小木と伏せ置と図のごとく

一家の裏林と四方小設く其面石を疊て是を築其内と空虚
なり其両端戸口は所小むと側と上面と穿ちて竈とを以て故
は其炊烟竈外に發せしむて悉く林中と廻り家の四隅に達し
て後家外に達し筒木中より發しよりぬ是を以て嚴冬積雪
の時といふも家内温暖なり穴居せしむとて可なり
一家の中央に初冬穴居中のまじく土間よりて其中央に閣と後

一 け飲食の雜具其他日用の器械あり総て此閣上ト貯ふ
一 戸扉ハ悉く割板ト以て是ト製一障子ハ 本邦のハ格子トと製一魚皮ト以て是ト張る

一 冬月ハ至る時ハ四壁の表面ト粘レて細隙の風ト防グと云
一 其穴居ハ居る者夏月居る所の家其製ハ總て同トとハとも戸口
と一所ハの是ト設けて外ハ出入る所ナく窓ト屋上ハ開
て透明トれ所トなり林ハ三方ハ設くとハどハ石ト以クセハび
とて板トと用フ家ハ中央大なる爐ト製テ外ハ電氣ト設け
ハ其側ト置テ雜器ト貯ム

一 其穴居の形林藏ハ其表面のトを見て其居中ト知らハ故ハ

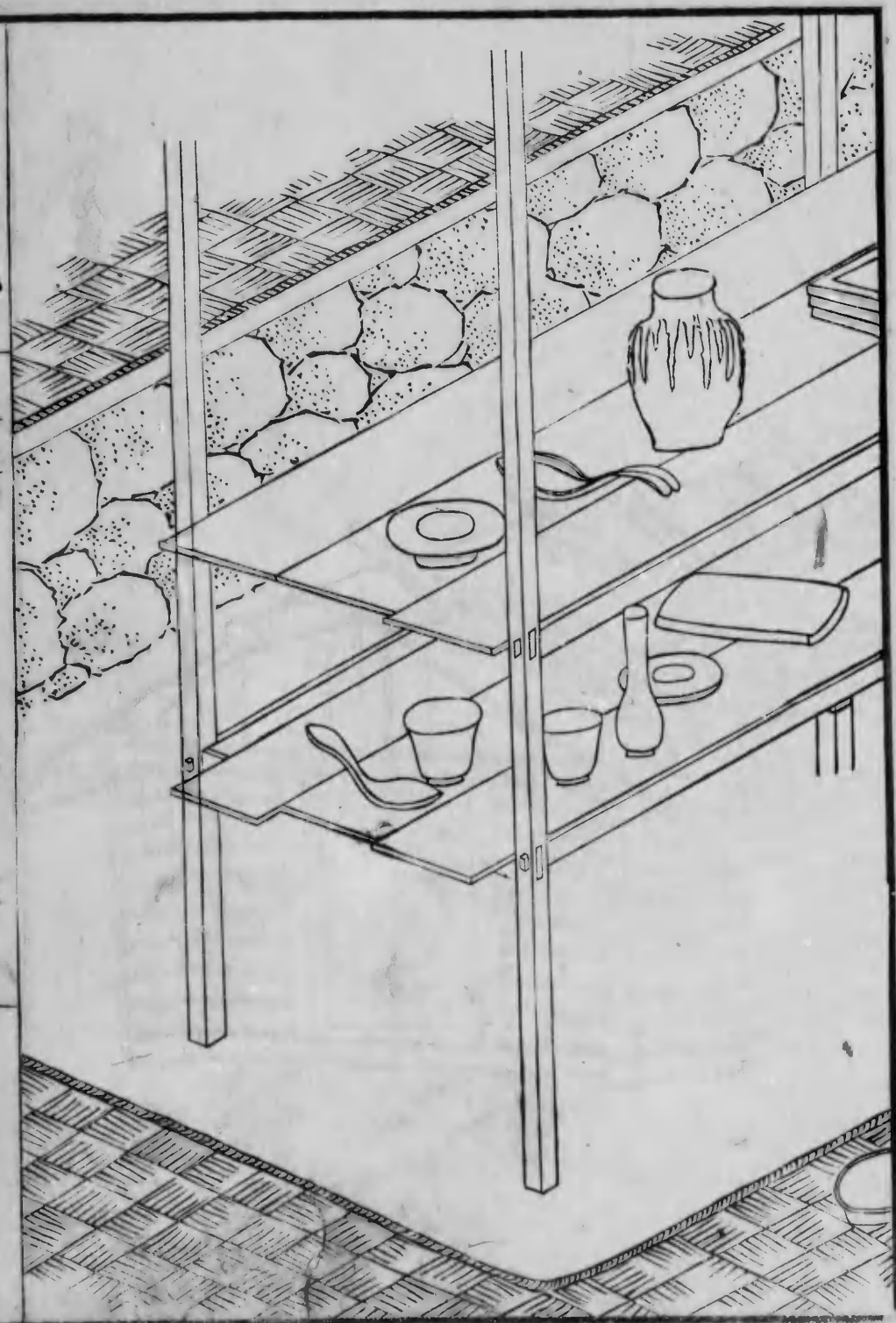
其見狀のハと圖シて其見ルところハをハ闕カ如ハ以ハ蓋一初島の
穴居ハ異ルありナリ

一 倉廩の製ハ居家ト同一山ハ行テ木トほハ其根の殊ハ蔓
延シ地上ハ置テ轉伏セる者ト撰テ持来礎トありナリ
圖のハがハ

一 産業ハ漁獵ト勤め交易ト事トハ且ハ犬ト伴フ事南方の
がハ尤モ甚ク ヲロツク ハ貧富の者ハ論ナく家ハ是ト飼ヤ
る者ハ其惠養の厚キ事ハ南方ハ倍セる一家の内男女
の論ハ各犬ト養ヒ是ハ家翁の犬彼ハ老姫の狗嫡子の犬
二男の狗ハ各ハ各ハ頭五頭ト養フ故ハ一家ハ養ト

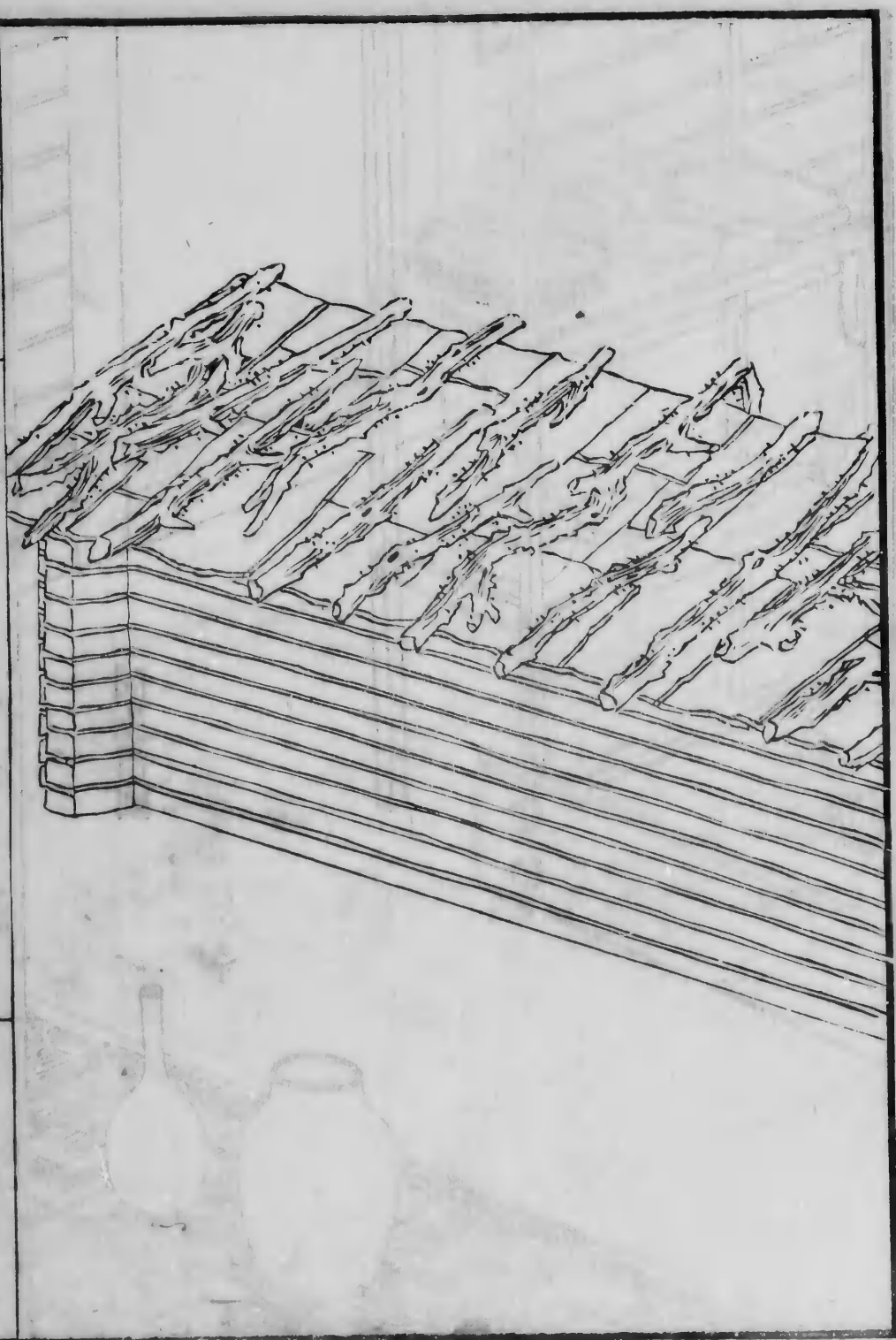
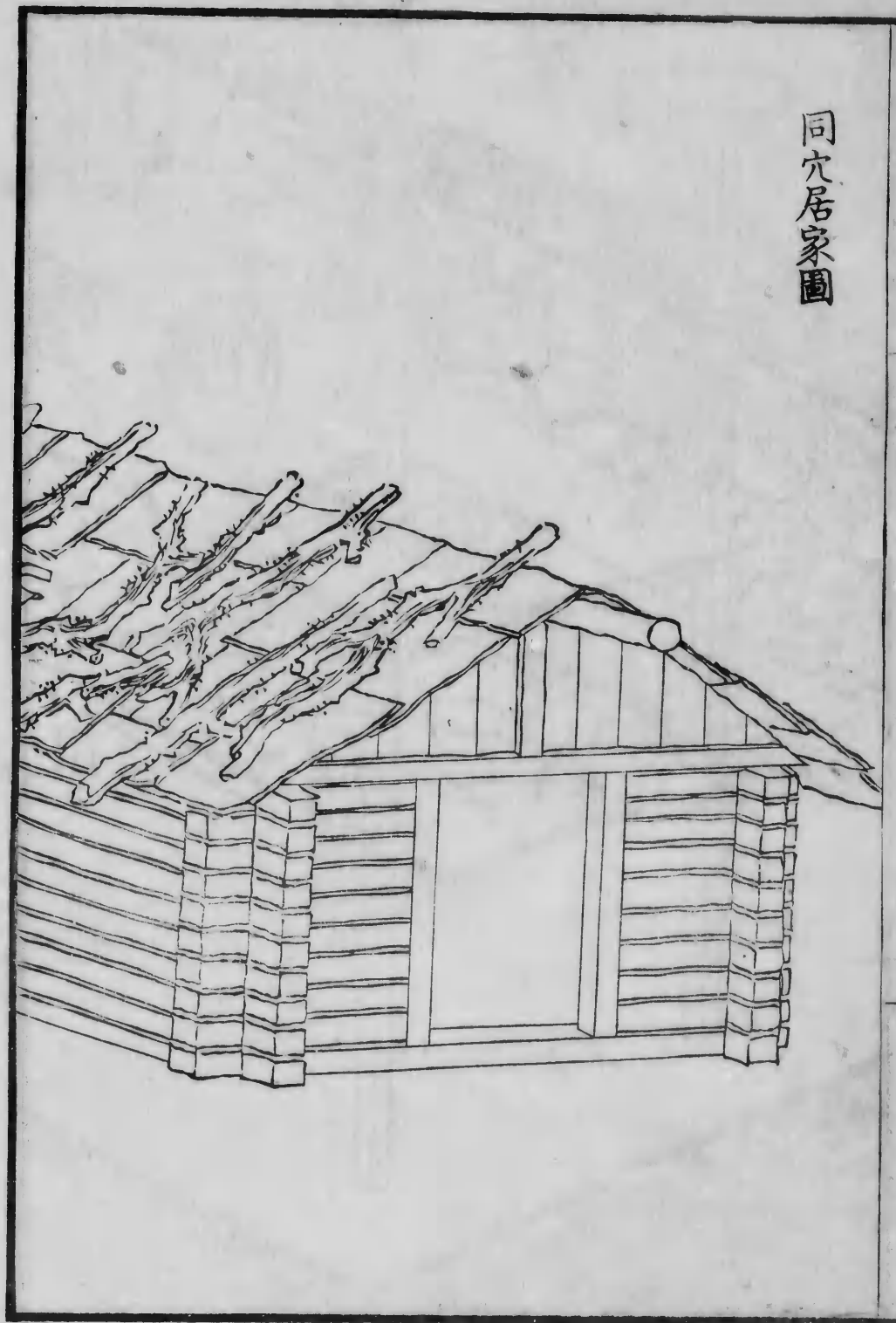
スメジツクル家圖



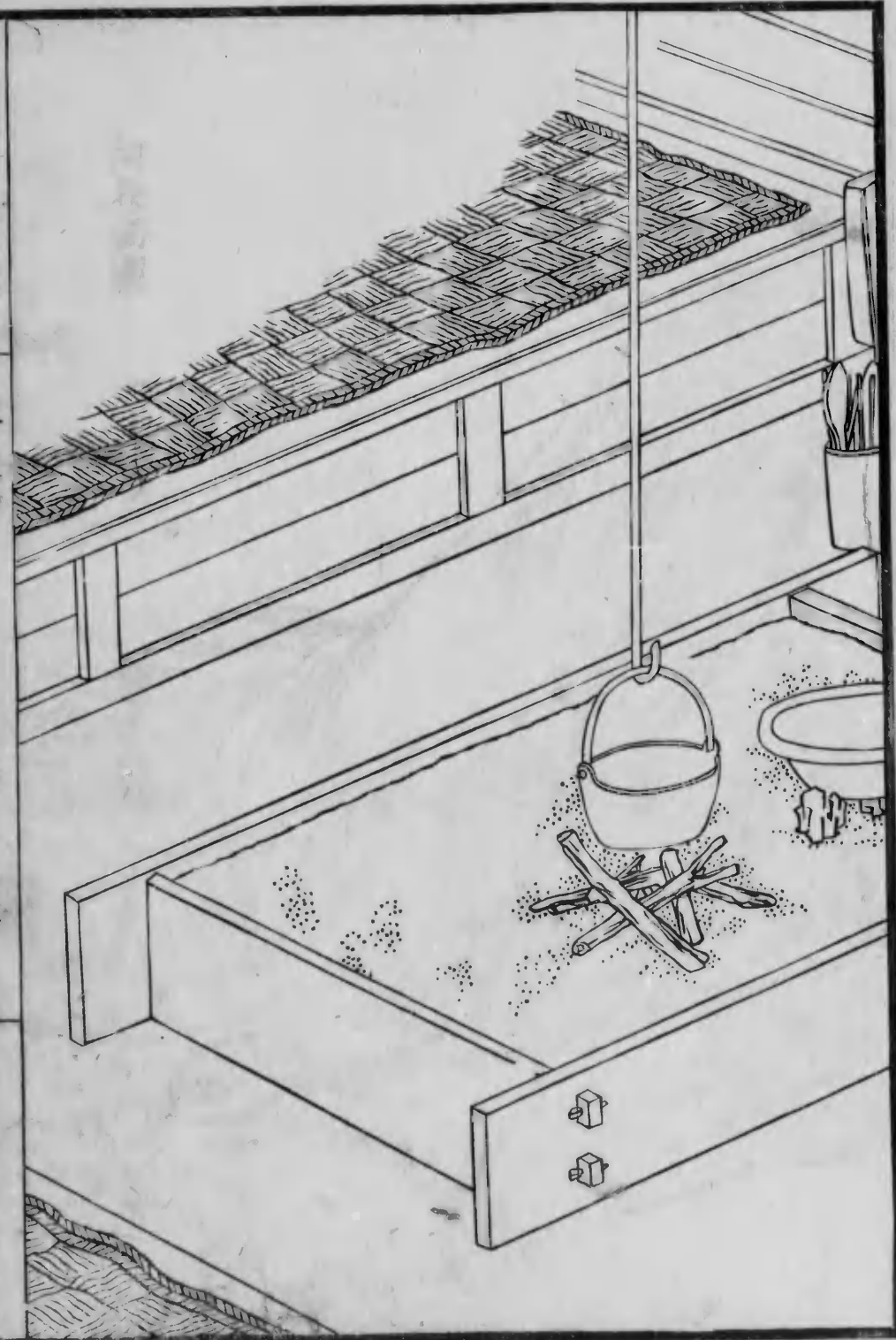
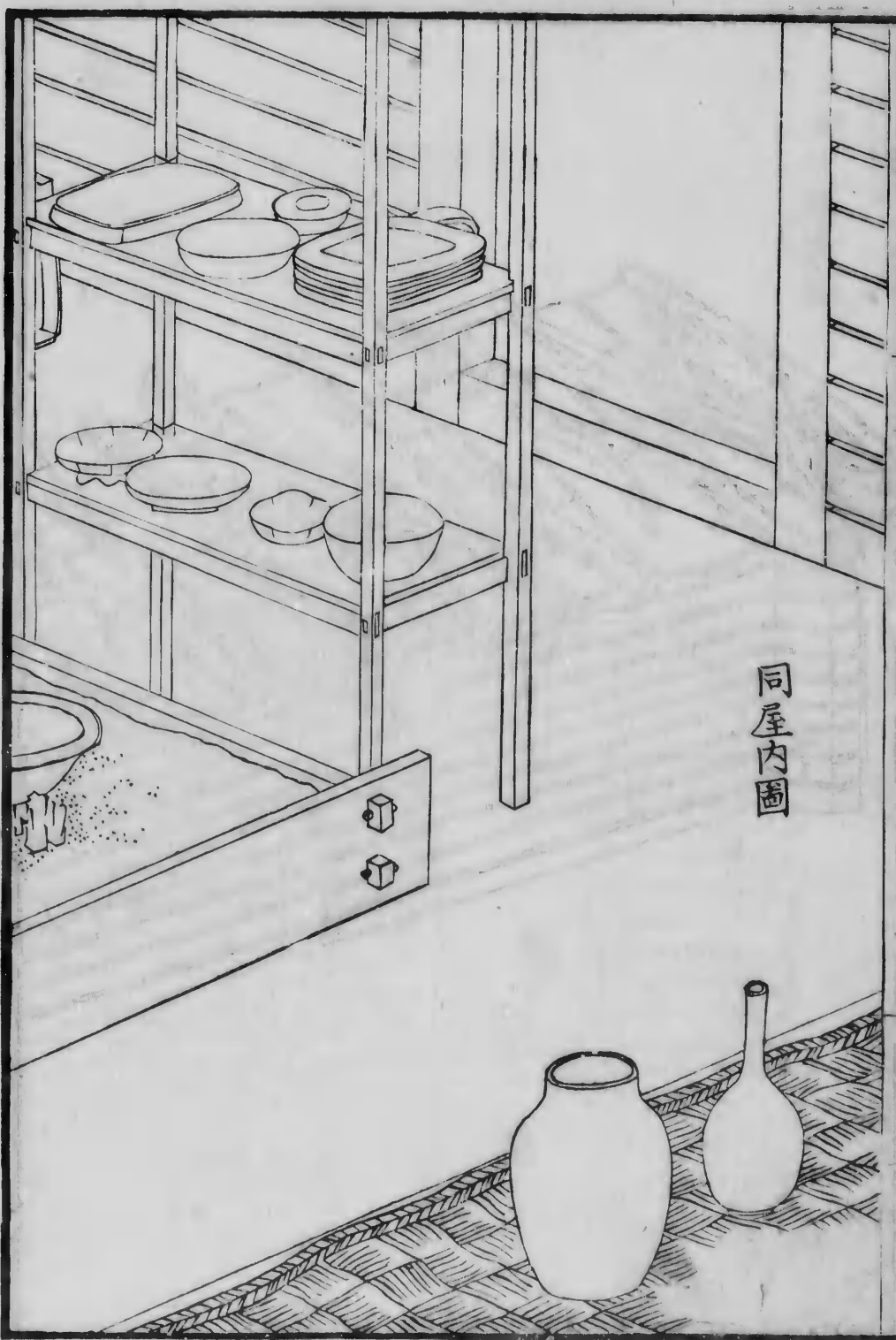


同屋內圖

同穴居家圖

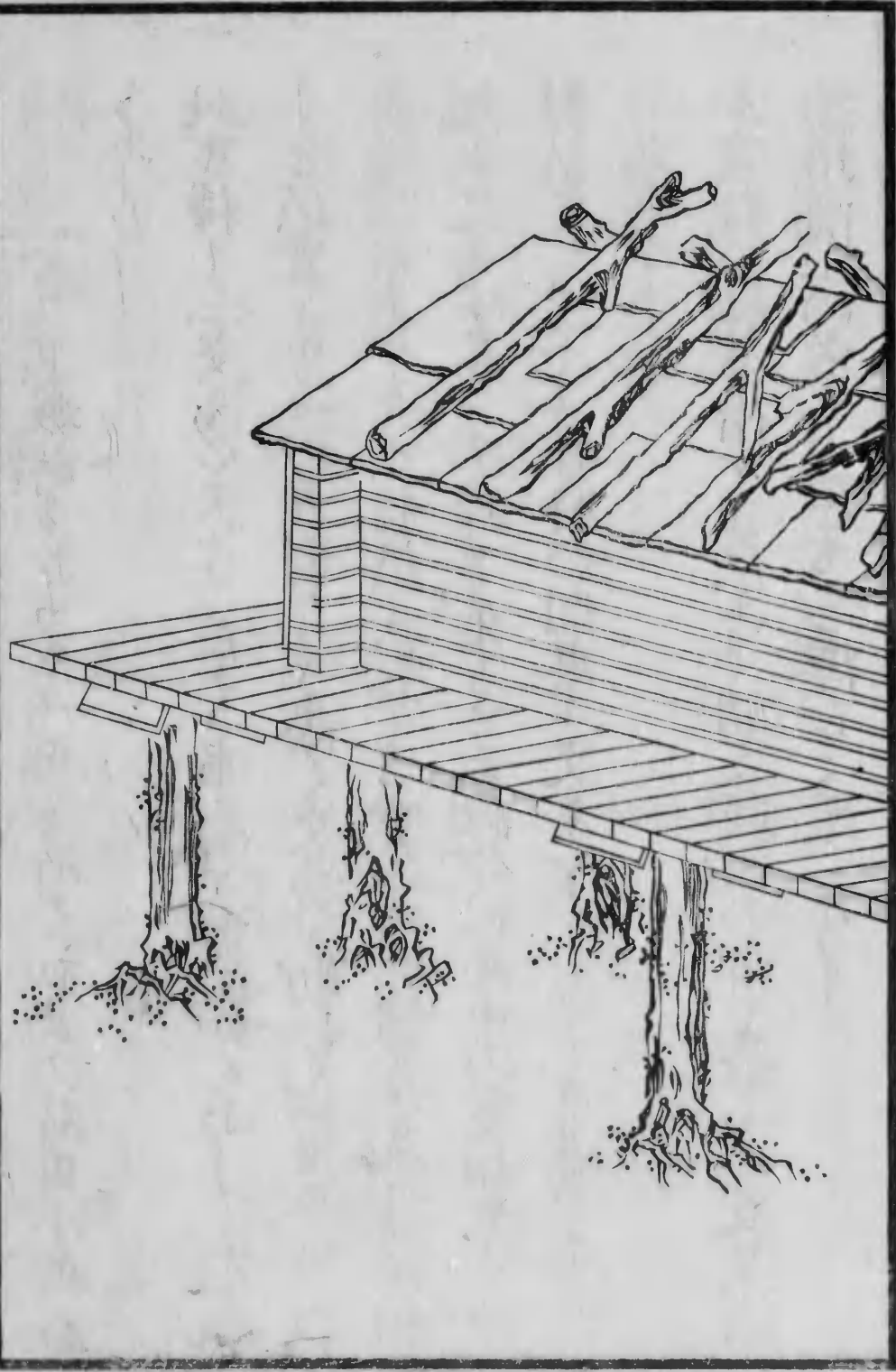


同屋內圖

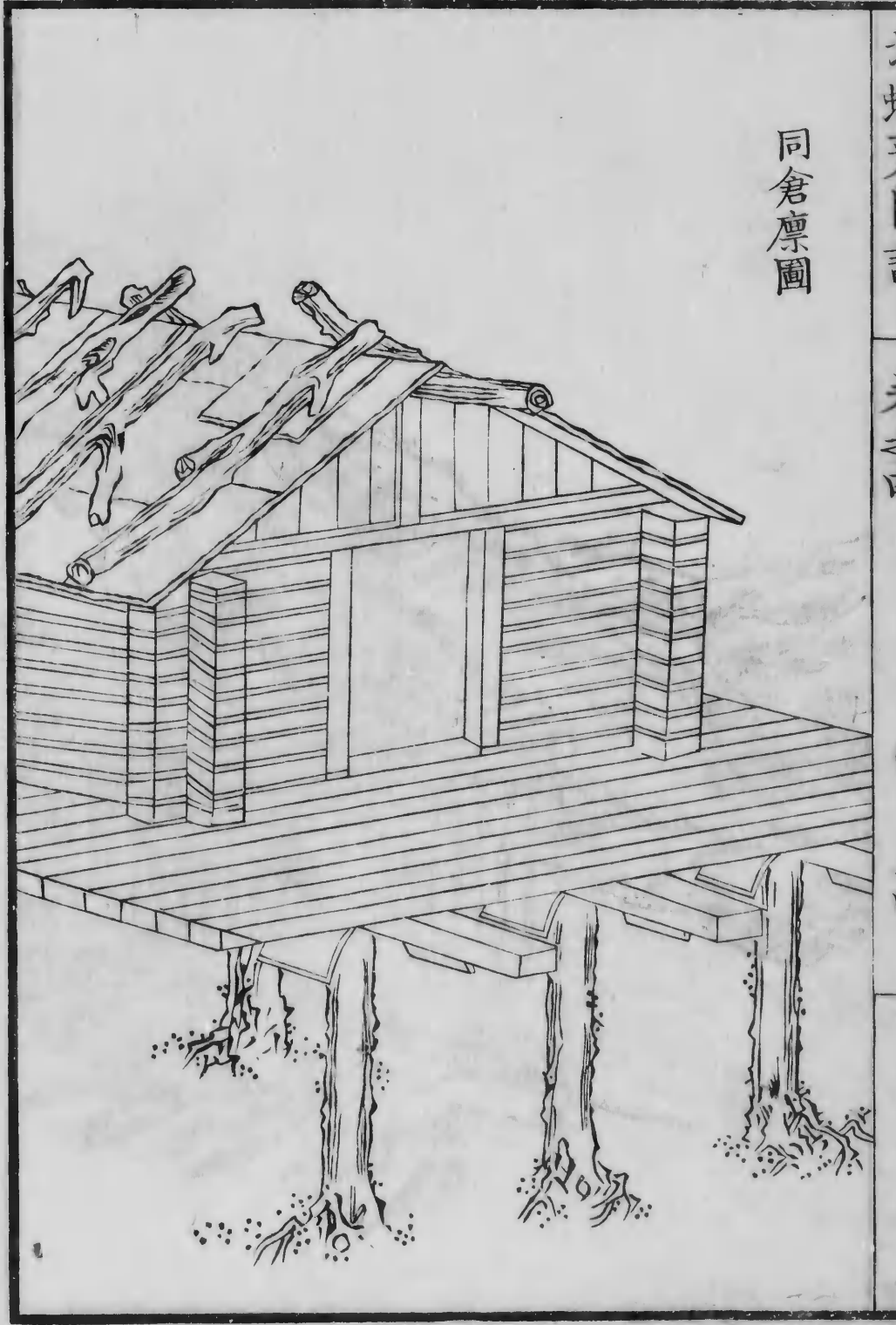


同外面圖





同倉原圖



ろといふども其數許多ちかちその用る所を初島の所用小異なる
るありたり

一 此夷種も亦交易とありくも事南方夷の如くありて尤甚
一との實は男女の差別なく悉く交易を勤む凡一里半里乃
所は諸用ありて出行はといふども必交易の諸品を携行き相
互に交易とありて歸て來ると云假令同集中の夷相集て談
話はるといふども暫時の間忽ち交易とありて實は生産
の第一なり

一 此夷種諸物貸借とありあり朋友昵近の者云ふ不及及び
遠境隔土の者といふども忌憚とありたり

一 此夷も亦鍛冶となし事南方夷異なるありあり 此夷域に至
るるハ鉄物あり無数ありて地鉄となしづき者少し故
に破鍋るど貯置て地鉄とあり其鉄はとらむツク鉄なれば
練磨の事大に辛苦なり且其鉄錬磨して終て刀しるはづきの
間漸く減却して僅小十分の一を得ると云

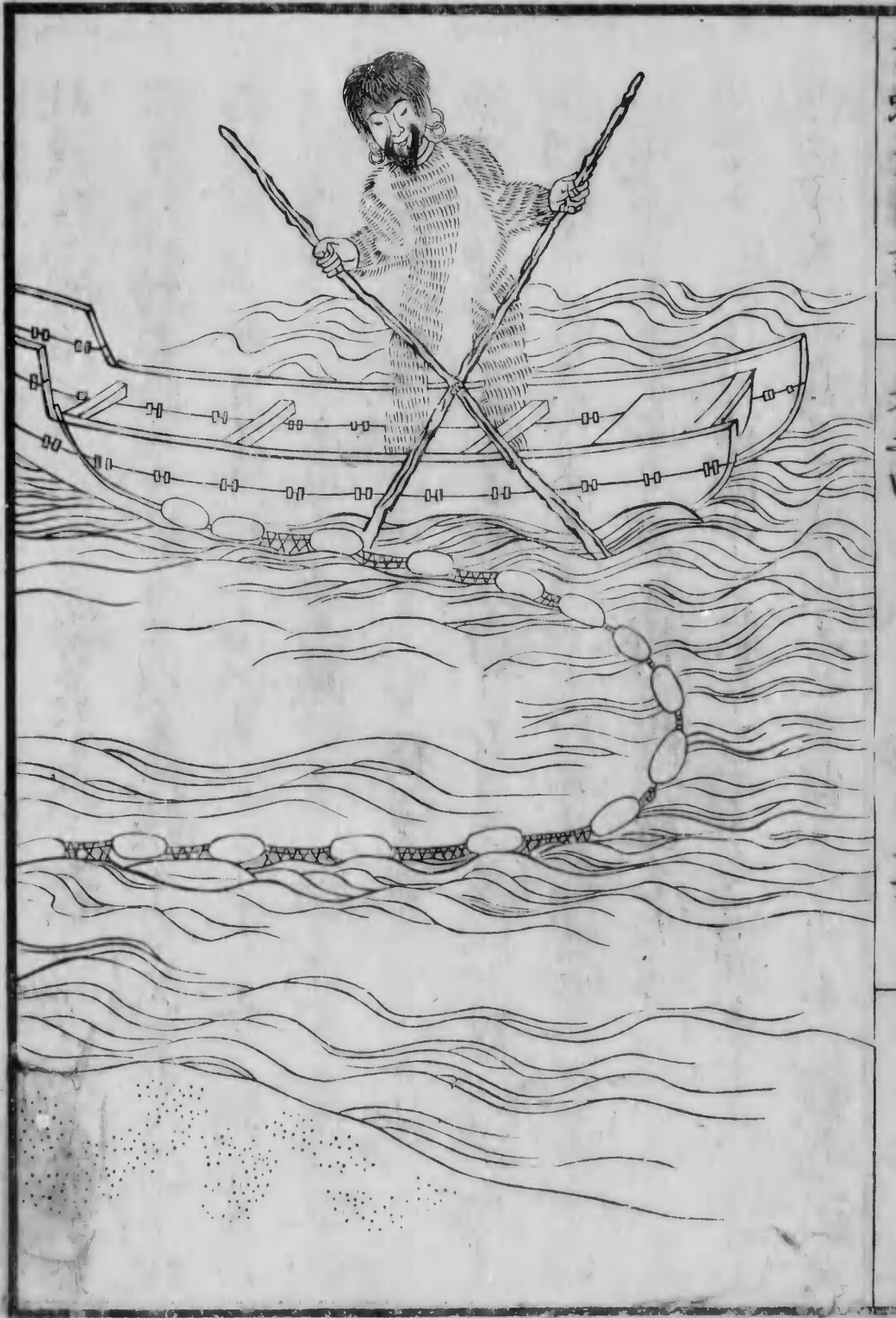
一 漁獵の事総て南方異なるありあり 只差網と設て魚を得る
小園に置くたるものあり潮水増減の時小當て灣口などの
迫處ありて是をたり魚を得るあり許多あり

一 ノテト邊の海岸地圖中は載らるるごとく沼湖多し其には
鴨のども小島羣集しるあり雲霞のども夷兒戲遊の暇は

差網漁圖



七反及圖說



北地夷圖言

卷之四

夷兒捕鳥圖



と得る者や、圖の如く兩兒相對きて繩を引一兒よして鳥と
追しむ鳥驚き縋て繩上と越るの時兩兒繩を踊りて是を打
小大抵一撃ふさく七八羽と得ると云繩長々三四尋長夷も
まゝ是とちひとつごども大抵夷兒のちひ處ちや

一 漁獵の事総て南方夷に異る者ありといへども其性本より剛
強なるものなれども其業とちひと晝夜のちちり致くとい
て飢渴を忍びけしむる者あり南方夷の及ぎなるとちちり云

スメレンクル夷の部下

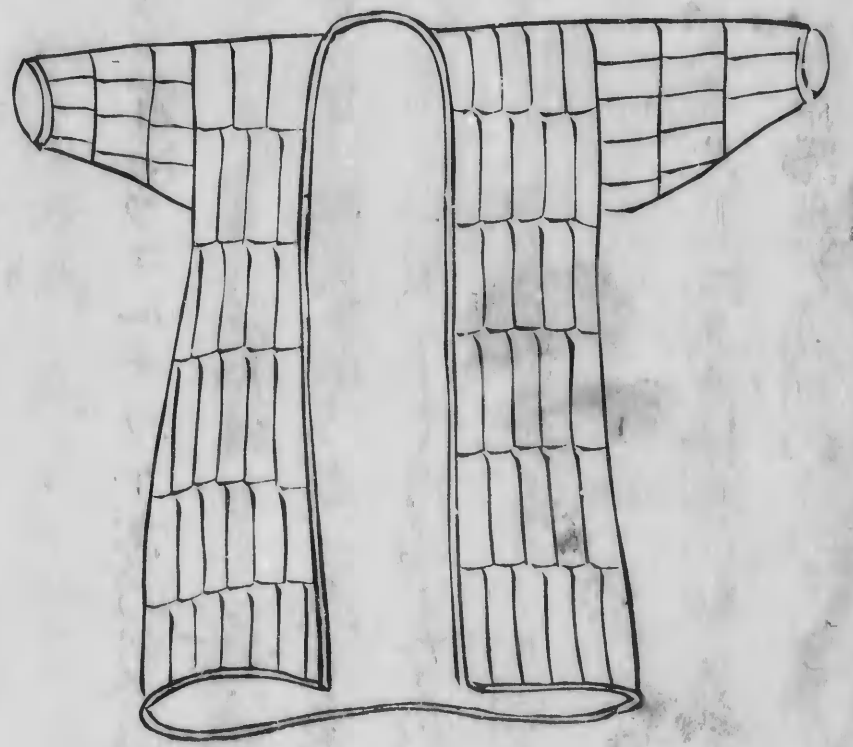
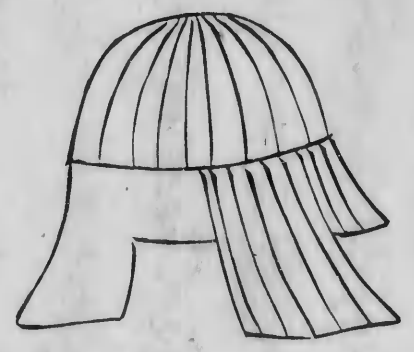
一 此夷種の宝器と称する物ハ蝦夷島に異る者や、短刀、鐔、
目貫めぬきの類也 本邦の易へ渡りてちちりものとせらるや 又滿州より

来る處の短刀あり其柄えさ鞘さやと蝦夷刻のぶく彫文一十ヤン
と以て塗たる物ちや

一 夷寶の内ベツキと称する者ハウコルテツケ夷の製はると
ちちりて甲冑の粗なるものちちり、滿州諸夷も皆是と宝
とひ其製薄鉄と以て札や、獣皮と以て是と綴り、裏ハ獸
皮とつく其狀圖のちちり、殊小粗製ちちりて用器とちひ、
物小あゝびとつごども夷中第一品乃寶器とちちり、凡國争の
事ある時ハ首長うちやうたる者其他富貴の者ハ皆是と被る

一 平生用ふるもの器械漆器、斧、鍋、其他鉄物の類ハ多く
本邦の物と用ひ其他の諸雜器悉く滿州のうつそと用ふ

一ツ千圖

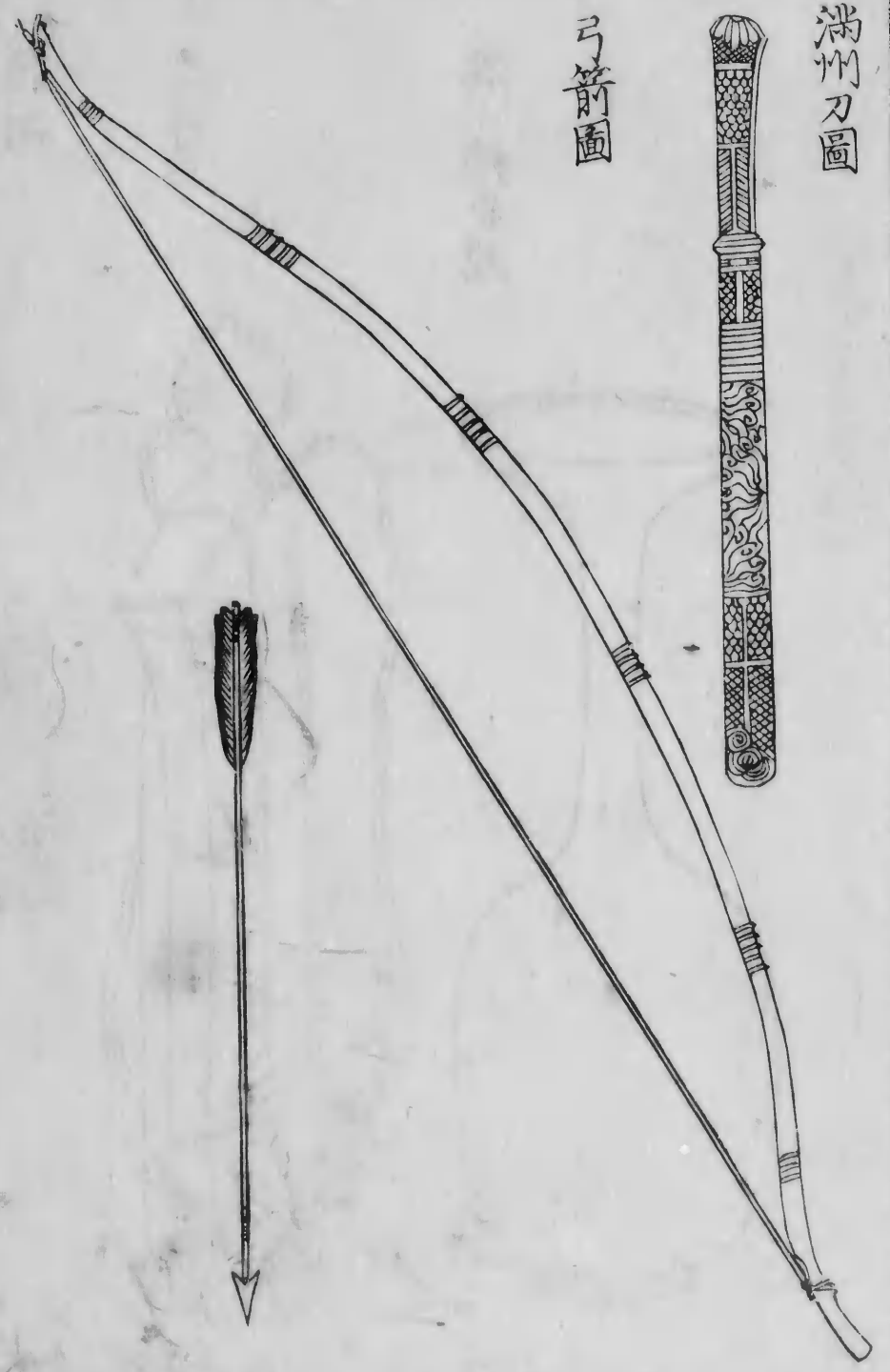


一弓矢の類蝦夷島と異る者なり 唯籠かごの其製と異る故に圖と出

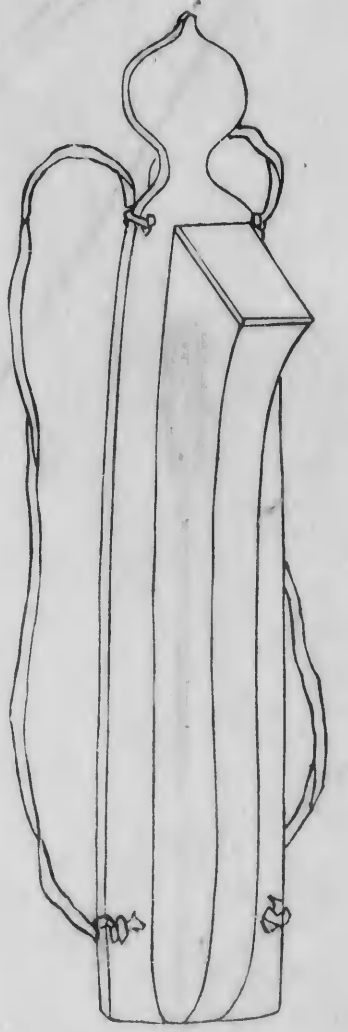
満州刀圖



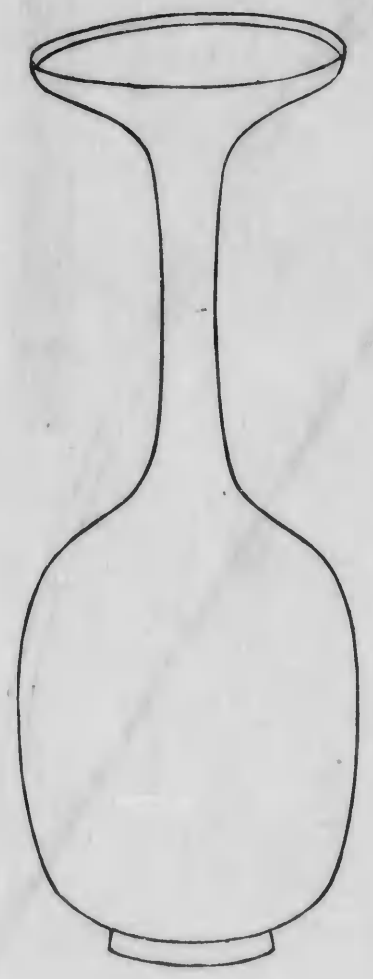
弓箭圖



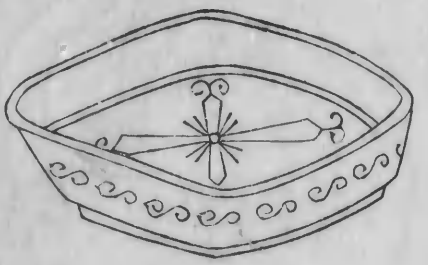
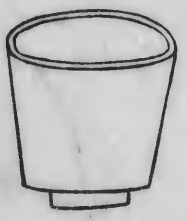
箬圖



滿州錫壺圖

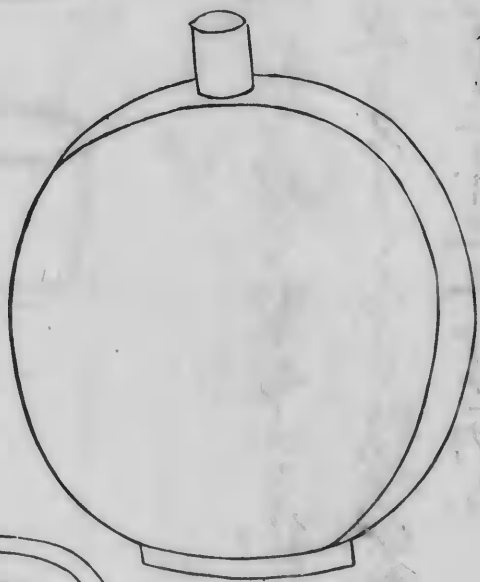
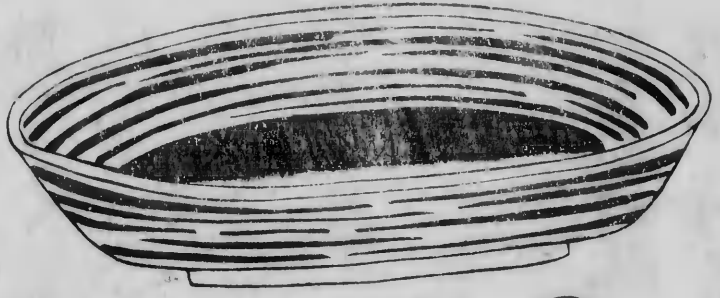


一 滿州より易へ来る錫壺陶器其形其大と大抵圖の如く杯盤は多く本邦の杯又く四椀の末蓋と用ふ故に其圖を附し又滿州皿と用ふる者あり

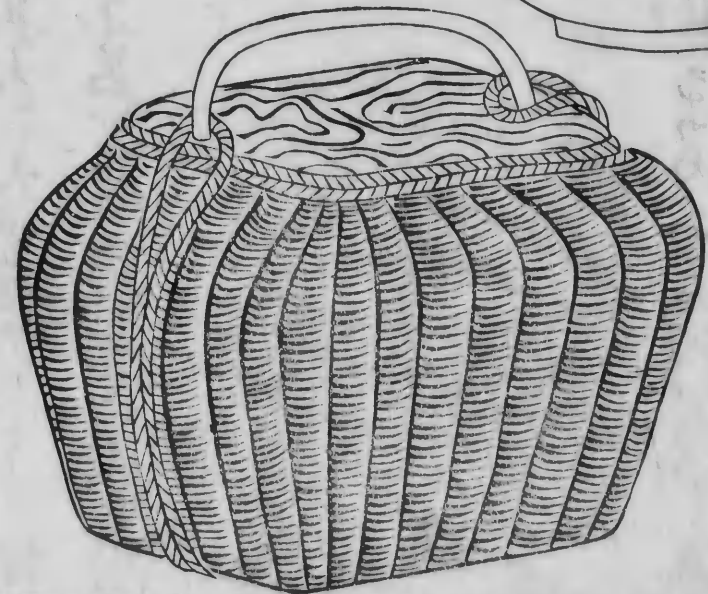


一 初圖の酒瓶ハ秋と以て製さる籠ちの内面澁糊を以て紙糊酒を盛る久くさくさく敗損の愁なり大小種くあり大抵七八升と一斗二三斗と納る

酒瓶 後圖



酒瓶 初圖



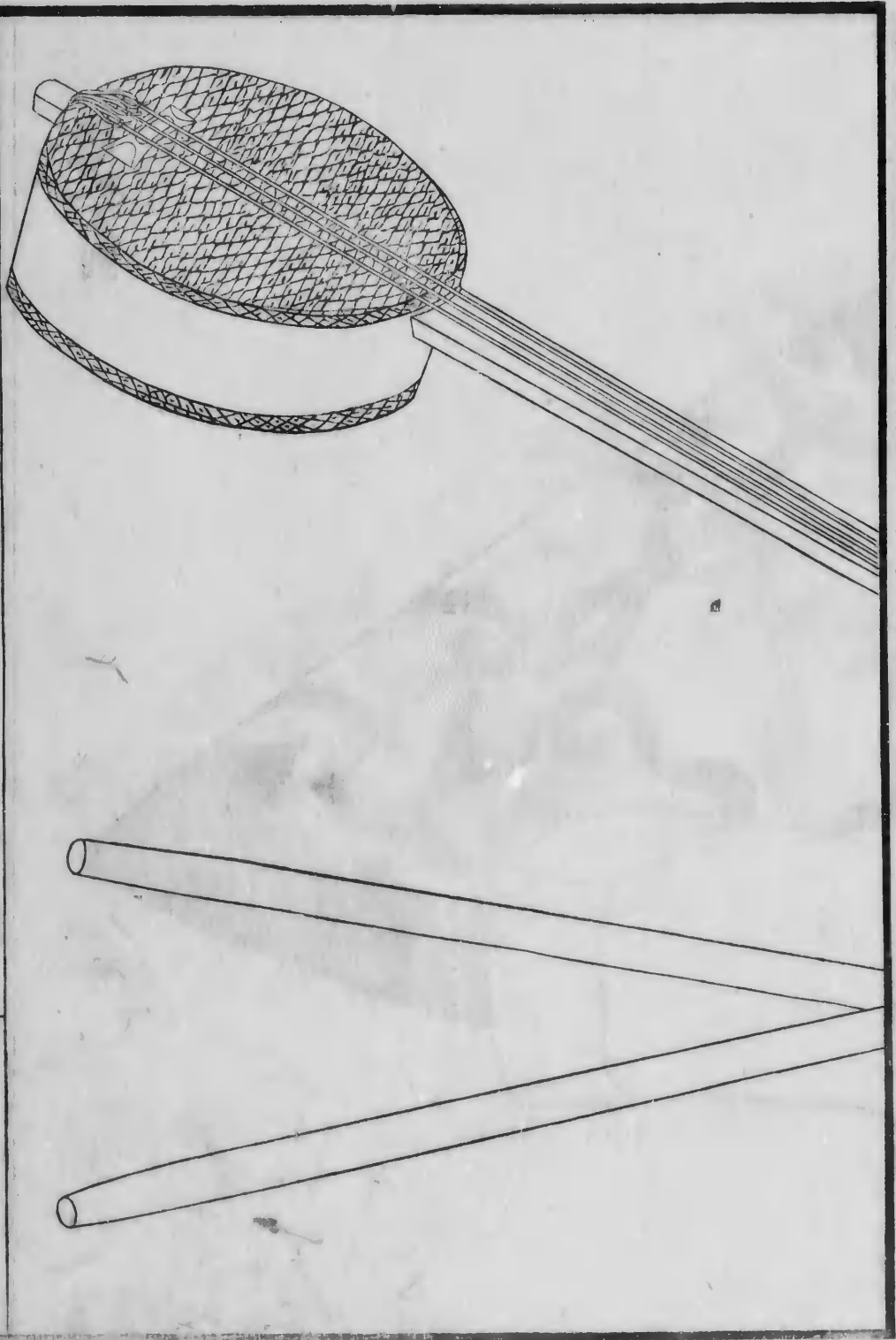
コレテケ夷製盆圖

一 後圖の酒瓶は木を以て輪を製し外面は澁糊紙粘りて是を製し是は大小同くかゝり大抵三升より三四升までありと云

一 夷はづら製はしと云ふの相管あり圖のごとく石を以て是を造る又三弦の鼓器あり胴は圓く魚皮を以て是を以て蓋し

東鞆の易へ渡はしと云ふは又女夷の製はしと云ふは枕笠の二器あり其狀圖あり枕は木綿を以て是を造り色絹を以て其横面小文彩し頭の觸るとあり別の木綿を巻く笠は樺木皮を以て是を製し同皮を染りて文彩をなはしと圖の如し

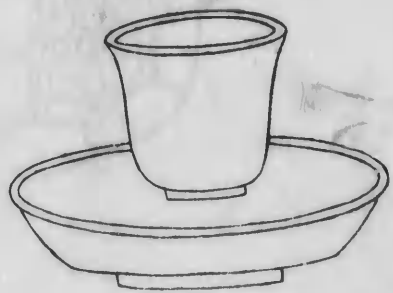
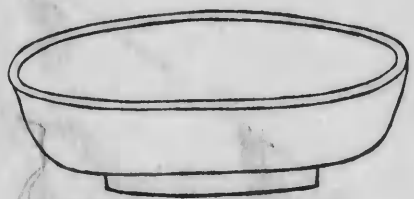
夷製三弦及烟管圖



同枕笠圖



一 此夷種ハ滿州より墨丹の類と易(来)て諸器ハ文彩とるは
 是南諸夷の如くところあり



一 舟ハ悉く滿州の屬夷コルデツケハ仔者滿州紀行の中詳也の造ること
 ころありて地夷の製はるものあり松を以て是を製し其釘
 と悉く木也甚軟柔不便小志て堅密實用の物とありされを

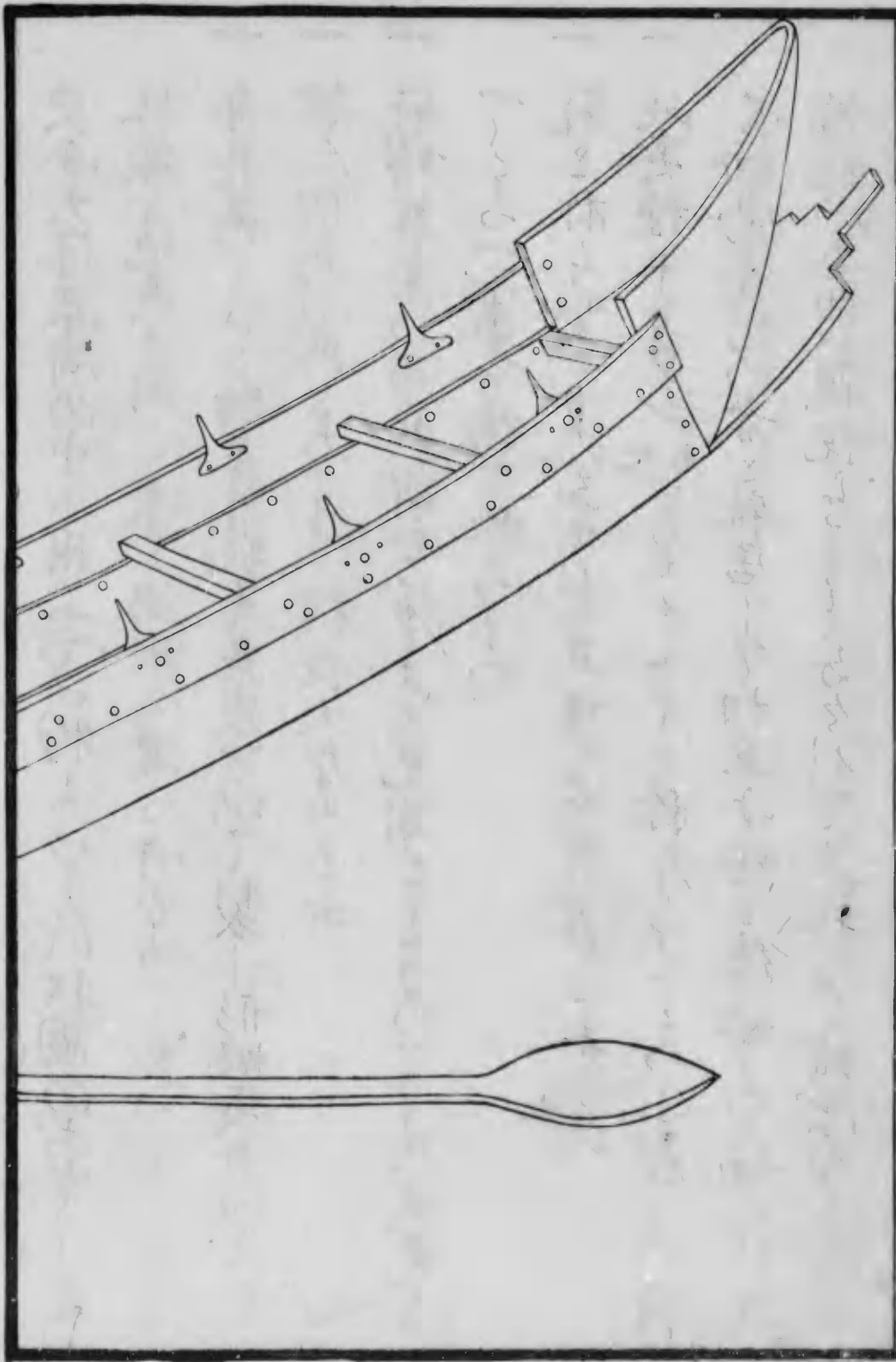
更小大洋波濤の中小用之べき物よりハ状圖の如く是
 林藏の地夷と同一乘て滿州に渡る舟なり

一 舟具異つる物なり帆も魚皮を以て製し形蝦夷舟の如し
 一 艚ハ初島小異るものなり稍長大なりと云

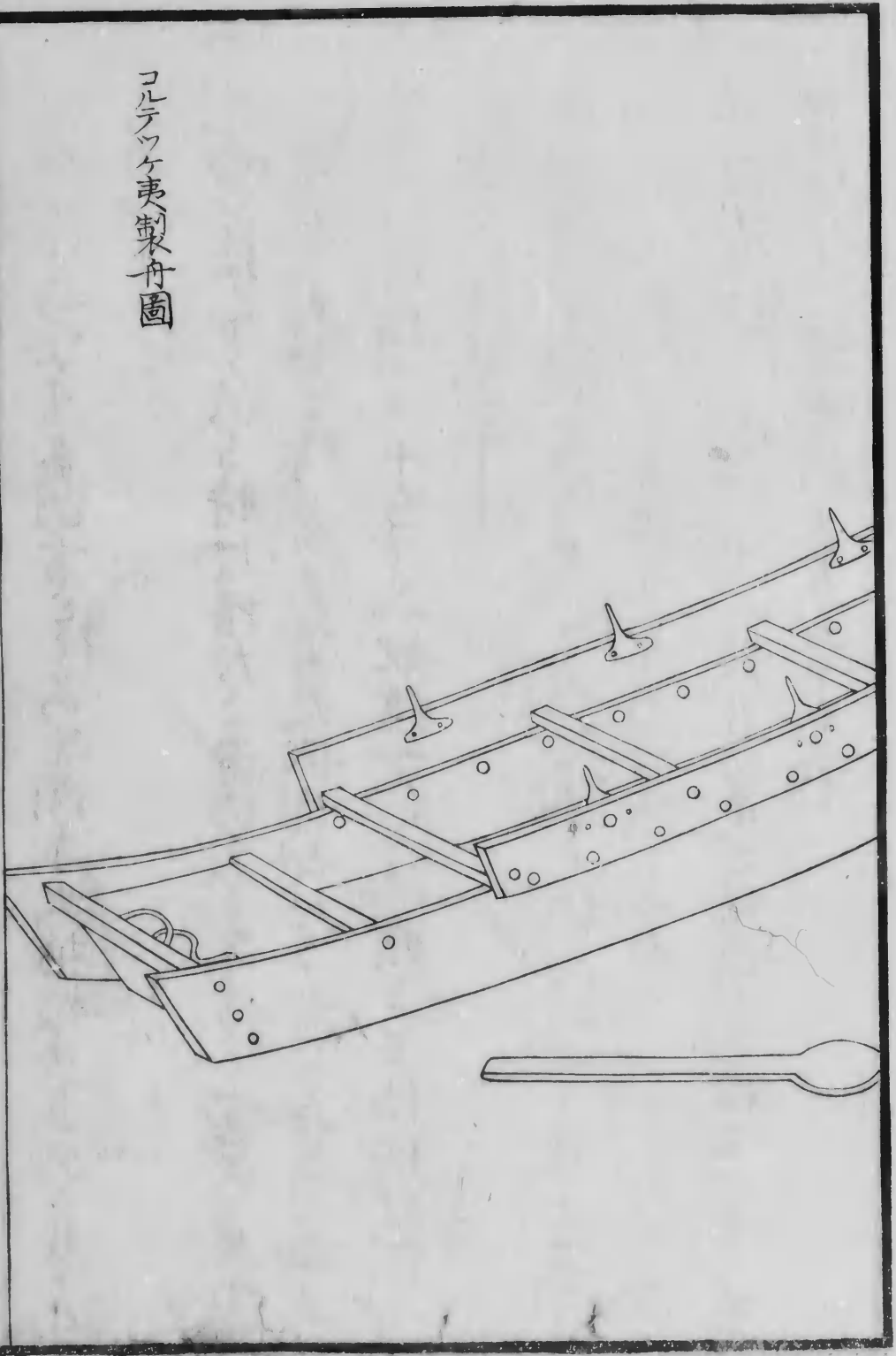
一 冠婚葬祭の事其詳なはるものと見聞するものなり只其見る
 やころ二三事と揚て此よりあり

一 冠と称するべきものありハ其禮も亦有べきことあり

一 此夷種キトウシ地名トイと称するところあり互の
 間初島夷俗の者と雜居して相互に婚と結ぶことと嫌つる其
 婚禮の委曲ハ親視するところあり其詳なるハ陳ゆるあり



コレツケ夷製舟圖

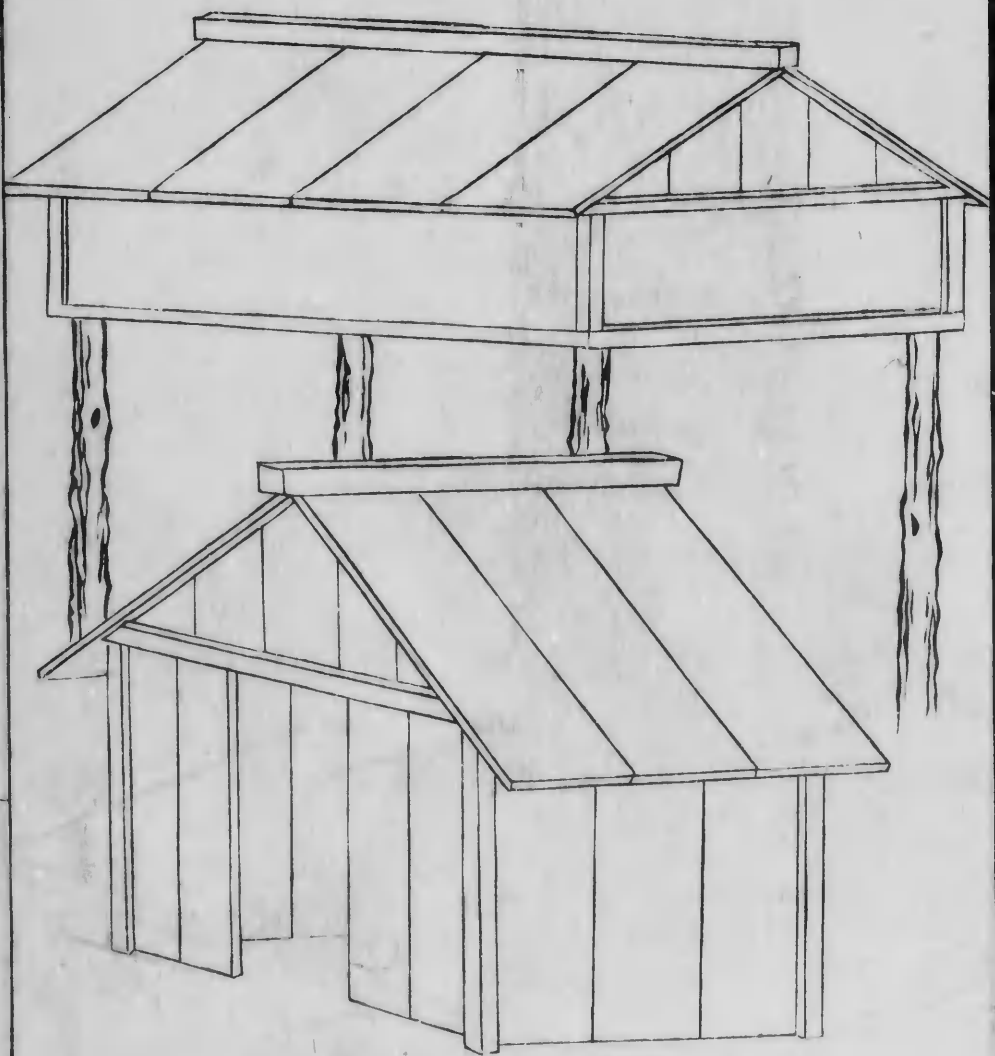


と得びとゞども夷の言とゞつと内ふ大抵蝦夷島の言とこと
るの如し

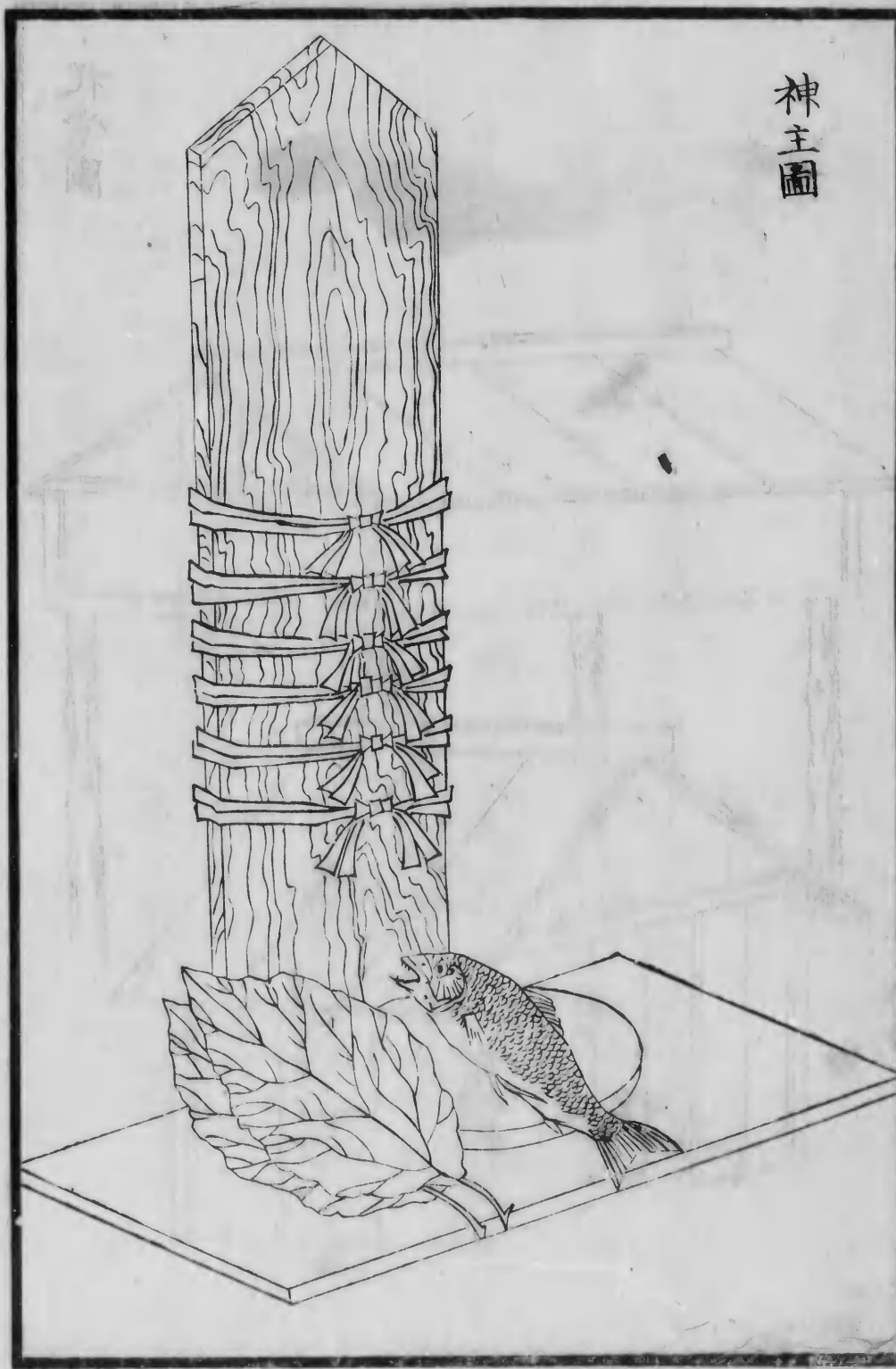
一 凡婚を結んとしむる時は婿たる者の家より多く宝貨と舅家
に贈りて其女を請ふ事あり大抵酋長たる者ハ宝貨の最上
となし所謂ベツチなるが小奴僕一人を添贈ると結納此例と
し貴女的情見と

一 結婚同姓と忌む事其いれを聞ふとゞども殊ふ甚し
と云 本邦後兄弟相忌むるの類絶てなきと云ふ事あり
一 其結婚の状を見るに大抵隔在わがさいの夷と結婚し甚き者ハ百
里の外より嫁娶する者ありと云

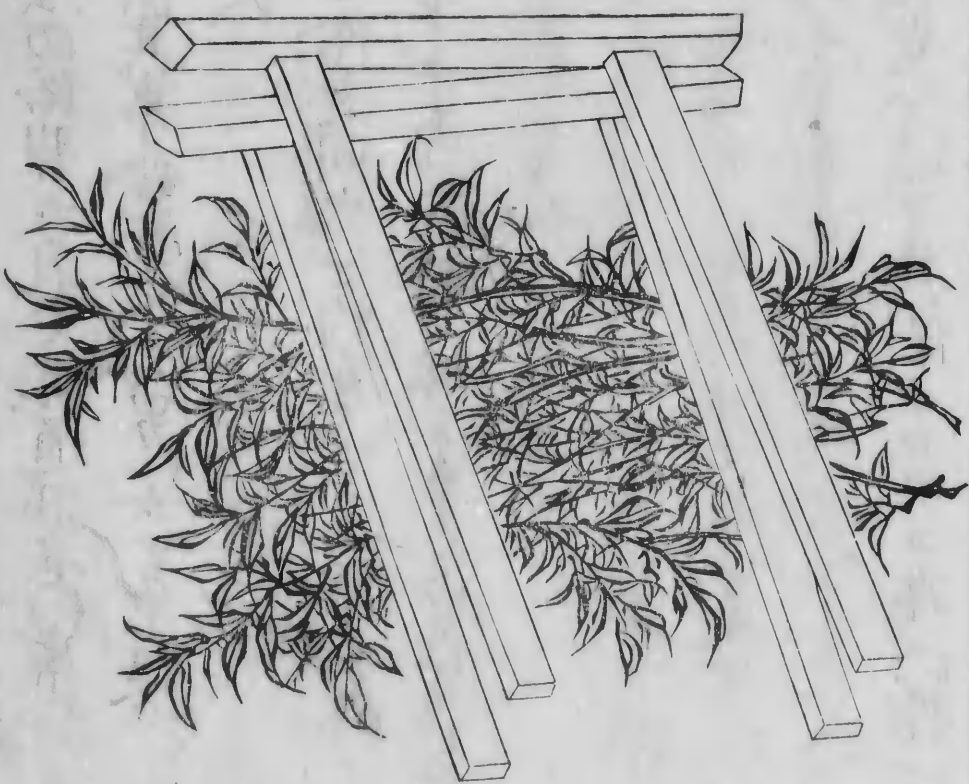
祀堂圖



神主圖



葬儀圖



一 上小言々々々男女多淫の俗習なれど姦通邪淫の事許多也故に其結婚の時及び其事發覺し西男一女と争ひ終は相死傷ひさす少くは

一人の處女小密通し終は偕老同穴と約さすも相伴て婦家と出我家を誘ひ來ることあり其時殊は多く寶貨と女家小贈りて其父兄は罪を謝し家婦とちひと云

一 死亡の事ハ夷の殊小忌むところなれど林蔵其事を聞かれども其見るところ人死する時ハ衆夷涕泣して是を悲しむと甚深く其葬事を行ふ事南方と大に異はして死人を焼其骨をむろし家側は祠堂を造り其側ヲロツコ夷の棺れ如

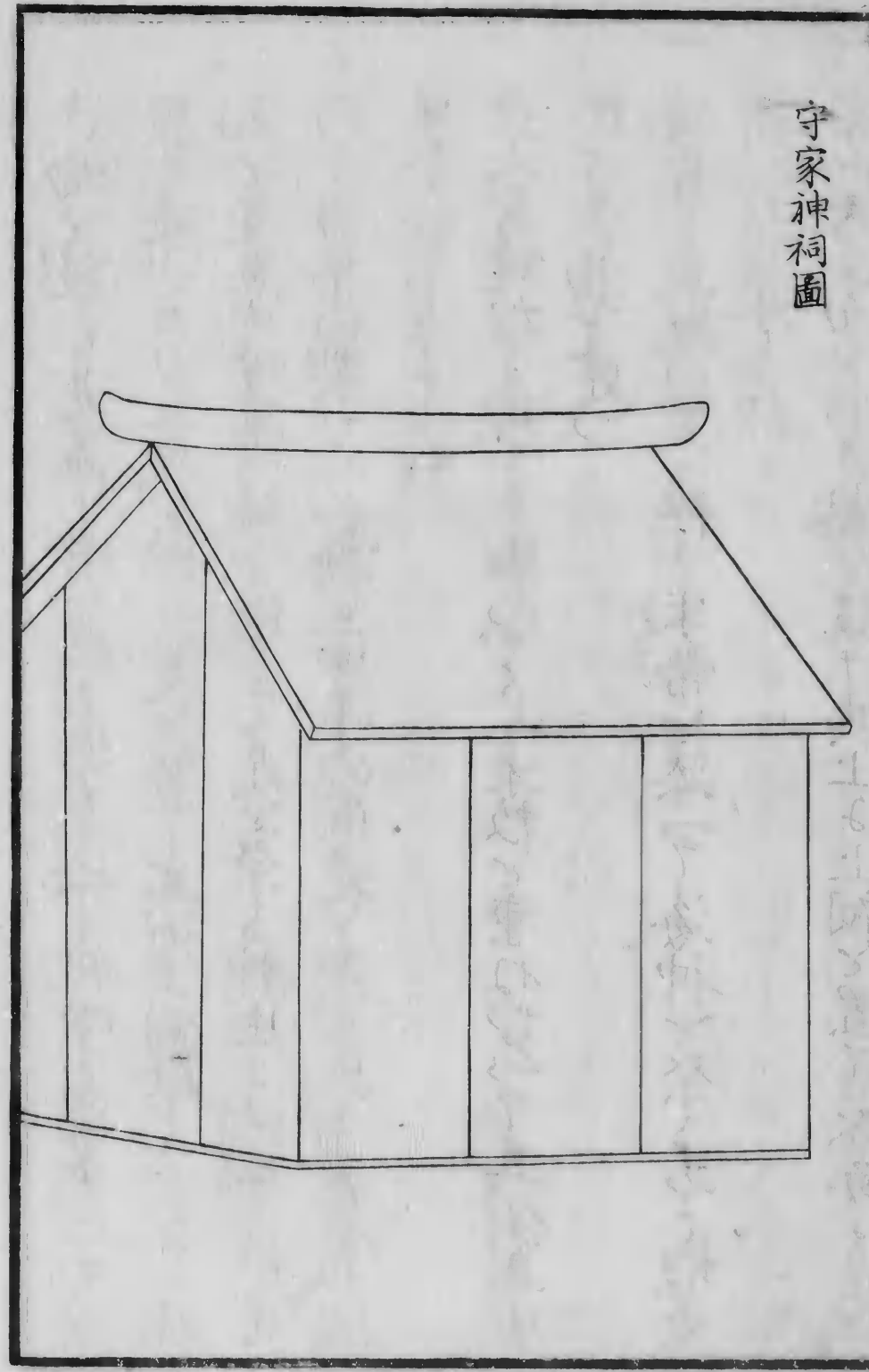
き物と設く是蓋骨を納る物かぐり祠堂高さ凡二尺餘廣を是小のな小板を以て是を製し其内は圖はくくる神主と置魚肉煙草の類を供して是を祭る神主は結着ひるもの布帛の裂なり如斯三四年の間是を祭るも甚厚く後悉く毀ち去ると云

一 死人を焼たる所は圖のごく本枝と重ねおひて其側鳥居のごき物と建つ

一 海岸は魚獸の首を供し木幣を添て海神を祭るも蝦夷島のごき

一 家内正面は小き閣を設け其上は上祠を置て家毎は是と

守家神祠圖



祭る祠中小圖のどくある本製の神主あり何ものたるや
 を知らば林藏其故を問ふとつども言語通せざれば夷の答
 るところ瞭然たるべし蓋守家の神なるべしと云

北蝦夷圖説卷之四終

北蝦夷圖説附録

一 此島スメンクル夷の内毎年満州の假府德楞 哩名より貢皮 獸
 と進め賞賜をうけて歸る來る者とハラタ長 夷カーシ次ンタ夷
 と稱は是満州夷の命びるところなりて蓋蝦夷島の乙名小
 使をいづる者の類なるべし林藏あるところ此夷は會して
 其受命の起えと詰問せしむる往昔年代 不知此島未だ満州に入貢
 せざりし時何國の夷船蓋魯西亞の船なるべし然れありて
 有々む年々此島に來り諸獸皮と交易せしむるありし其
 夷殊に暴虐ありて時々島夷と鬭争しつゝありし故に
 島夷常に是を恐る其後一やせ年代 不詳 蓋乾隆十二三年の頃なりし林藏島夷の蔵に

物と見しは満州錦と添一て与ふる黄紙と書せし満州夷多く
 の人数と率ひて此島小渡り徧く島中と巡檢せし事有るは
 島夷彼暴夷の襲ひ来りと思ひ往く逃竄して山に入る者
 多し其遁逃せびして海濱にあたり者と呼出し其人物と
 撰ひ西海岸イトイシラヌシと云ふ事百五十里余と称する所は志すトル
 ー又と名くる夷一人をハラタとなり夫より五十里許奥
 カウトと称する所は志す其名ウルトゴリなる者一人を命
 ト夫よりノテトの山路凡二十里許を越え東海岸に出トヤ
 カー一名メルと称する所は志す又一人を命志すハラタ
 ら此夷の子孫何れの時や又何故に移りや今其他
西海岸タムラヲーと称するところは居住し

カーシンタと称する者あつ諸方は多く是を命ト年々満州
 小入貢し其貢物も獣皮黒貂一枚と献らるゝその賞賜と
 して錦一卷と與へ其他交易の物も又下直あて是を與ふ
 一々約して歸り去りしより年々入貢し来りあつ詰り
 と云今イトイー此酋長テイ、又今ウヤクトウは居は是林
蔵同船して東轄の假府は
至りカウトの酋長モツケー又以上二夷東轄假府は
カヌーをて林蔵は是は會ひの三夷皆其子孫としてハラタ
 となるものなり

シラヌシトヤ西海岸凡五十里許奥地はナヨロと称する所
 あつりヨナイは志すの間は土著する夷人其風俗は南方夷

子異るやうなうとつどもスメレンクル夷のくくハラタ
 カーシシタと称ちて其身満州に附属一年其府は至了貢
 と進め賞賜を受る者あり林蔵再見のつてトコンブ地名の夷
 フーレルシクル年凡七トナイヨロ地名のクン子ト年凡
 フコー地名のイヘナシユイ年凡ナヨロのモンチーカン年テ
 七十此四人の老夷は質問して其事の起えを聞くと得た
 すと云四人は老夷あつて幼弱の頃れ事なるといふナヨロ乃
 酋長ヤエニヒラカン蓋し今の酋長ヤエニクルれ曾祖父と称ちて其人とれ
 了悍猾暴戻の者あつて其所は満州のスメレンクルのサン
 タンの夷交易ふ為に來了たる者凡拾人許と殺し其齎來了

たる所のれ悉く奪て是を取る此事濫觴夷の秘すると
 とを得ばといふども盗事を主として殺すあり其免れ得たる山且夷遁逃して國
 小歸了事状を以て満州の府に訴へ其翌年より満州夷
 船三艘を出し其属スメレンクル山且の諸夷を率めてナヨ
 ロ小來了満州夷此地に來る事是と始とい其後役貢の事小
 定からざれば信用しざりて其他タライカの邊に來るあり
 去年と徑るありは久しきとも近年又其來るありを休
 云と 去年暴をかきし者の黨與悉く是と束縛トナイ
 島の酋長たる者残らば呼集り其側は在りて其暴を制せざ
 るは罪を責り刑小置んや云夷等叩頭して赦さるむしを
 請ふるも猶是を許さるれば衆夷其蔵とるところの寶器と

出して其罪小贖ん事を請々せバ夷俗是をツ 満州夷漸く小
 其寶器を納めて其罪を赦ゆるしむもヤエヒラカンが事ハ
 此事の魁首として其罪殊小重々れを其子カンテツロシケ
 ○ヨイチテアイノの二人と出して是を質とあり將來満州
 小属を以て山獵をかり年毎に其獲ることを乃獸皮を以て府
 に来りて貢と入るアさはびまハ賞賜の物と興おこし且其他交易
 の事に至てハ其償物許多を得るせん又後來属夷の者此土
 小来るもの有といども慎つで暴をかんこたのれや約し諸
 寶器を納め其二子と率いめて其國小歸りしとあり人質ととる大
と此時起
ア今代山且夷交易の諸品を島夷小貸置て其債を贖ふ事
あくさざる者ハあとくく其子兄弟を釋かつて國を歸り質と

たひ世俗傳へりところ山且夷其地居夷の多うらん事を
 欲してカラフト島夷を買歸るとりよもの蓋此事なる一
 年に入貢懈ゆるることありしば其後年を経て二人の質を返

以時小當りて書をしりて印を点して二人をハラタれ官と
 かり其他夷人の才ある者と換てカーシクタたしむ此書
 首長ヤエンクルが家傳ふとりてはも満文を以て是と書
 副都統印と刻せり林蔵が模寫し其時よりて其子孫業
 と流しで今小玉島夷を率めて毎年にテレン即德楞
哩名至

了貢を進むと云今ナヨロの首長ヤエンクル一人のみハラ
 タして其他カーシクタたる者七人ありナヨロれシロト
 ナシカのモニシユトコテウシヨロのセンバクル同イコ
 ンランケ東海岸ナイフツのライシルアイノシヨンコタ

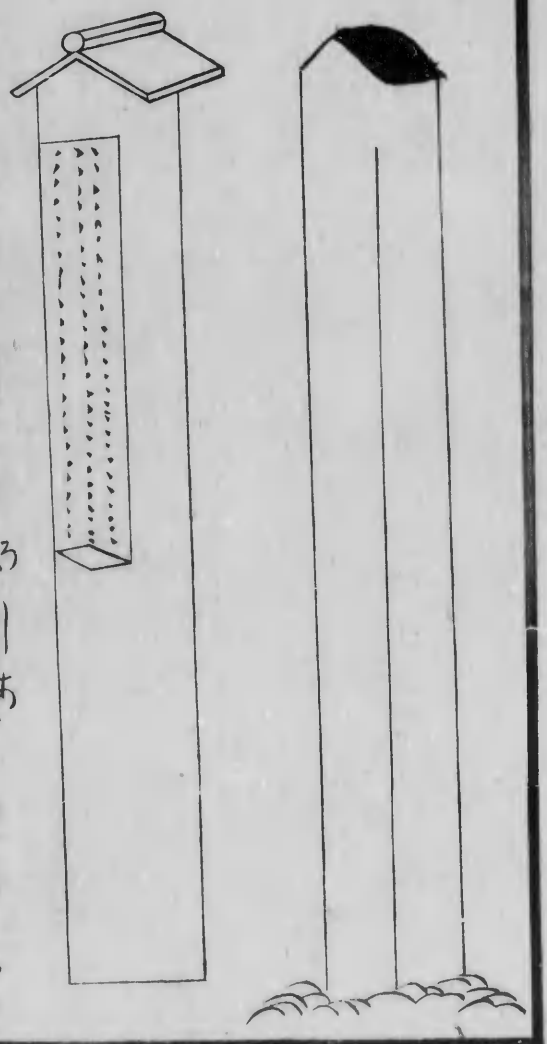
フのニシカニヌツ 然る小近年獣皮數多かりて年々其府
 に至る者を得ば漸西三年一度も入貢せし小獣皮も
 年と逐る少くあつた凡四五年間も其府小玉を得ざ
 ち小満州夷時山且夷として其貢を侵し頻りに漸
 く卯年獲るところの獣皮も少くあつたを以て辰年夏カ
 シンタ三人イノハクル。シロトマア 島夷拾人許と率めて
 満州の趣の途ノテトの埒を志て林蔵初見分の時是會
 一 再見分の時ホロコタンより又其歸船を逢ひくれど三
 夷小會して入貢の事状を問ふ衆夷皆曰満州の府小至
 入貢の式舊例の如く黒貂皮一枚を獻しシヤンケイ
 官人の夷

稱と様一けきハ其應接屢入貢せし時乃ぞとわび大
 小其入貢れ情あつる事を呵責し往時よとの恩恵を忘
 りやと罵り將來入貢の情わらむと嚴謹して歸せ
 と語り

一 林蔵至る所東韃地方の住夷スメレンクル。サンタン。コ
 ルテツケ。キムンアイノ。稱ひる者も大抵其部落毎
 ハラタ。カーシンタ。ちる者と置て其地夷を指揮せむと云
 一 此ハラタ。カーシンタと稱する者地夷の其指揮より
 るふあつて東韃の住夷スメレンクル山且此十ヨロよ来る
 時ハ管ヤエンクルの指揮を随ひ是と敬し他の庶夷は強

小安談の語を以てする類の事と云々島夷韃地に入るも
念然と云

一 東海岸ハンケタライカと称する所小往時滿州夷の建る處
の標柱あり今存在する所形圖の如く其文字、刻痕既
漫滅しく讀ぶべし以林蔵其地の夷（ンタ）ンケシユ名
者よりつて其往時の状と聞て往時ハ標頭ハ成と後其
下文字を題ひその文字の形と云夷の自書ハ如斯四行を題
書せりと答ふ故小林蔵より後圖の如くかゝる者と書きて
其形如斯かや否と問ふ真然也と答へたり故其
圖と贅ひ



一 ウシヨロよりノテト小玉るの間往昔魯齊亞の属夷カムキ
シメナモムワシレーヤと称する者ハ人來り住せり
て此夷をキーレントと称する種族の者より殊小姦猾暴戾
なる者より島夷と凌ぎ其婦女を侵し或ハ鬪争して庶
夷と殺し山且夷の來る者と相争ひるを以て其甚と云

宮華 安也二年乙卯四月庚辰

卷續 卷三

重 刻 齋 画



卷壹 卷四

赫 本 王 蘭 齋 画

